

## 「夢洲」を眺める

長年にわたり「愛知万博」を見つめてきたので、どうも「大阪万博」誘致構想が気になる。久しぶりに「エンジョイカード」を使い地下鉄に乗り、万博会場・カジノ予定地「夢洲」が見えるコスモスクエアに行った。

閑散とした駅を上がると、対岸部に夢洲が見え、コンテナ埠頭のクレーンが並んでいた。こんなところで大阪万博を開催し、その前にカジノを含むIRを設置するようだ。疑問の念を禁じえなかった。右側には、大阪港(天保山)の大観覧車、海遊館などが遠くに見える。なんだか心と体も冷たくなり、足早に立ち去った。

翌朝 23 日の朝日新聞 1 面に写真の地図と関連記事が掲載されていた。記憶に残すために、きちんと記録しておきたい。

大阪市営地下鉄の延伸経過について、大阪府と大阪府が「カジノマネー」で約 200 億円を補充する検討を進めている。カジノを含む統合型リゾート(IR)の誘致に向けた計画のため、受益者の IR 事業者に負担を求める。ただ、誘致に失敗すれば計画の見直しを迫られる恐れがある。

大阪府と大阪府は湾岸部の人工島・夢洲への IR 誘致のため、市営地下鉄中央線をコスモスクエア駅から夢洲まで約 3 ㎞延伸する計画を立てている。2014 年の概算では約 540 億円の費用を想定している。吉村洋文市長は 11 月の市議会で多額の費用負担のあり方を問われ、市の特別会計で負担予定の 202 億円について、「受益者である(IR)の事業者に負担を求めていく」と述べた。

府と市の幹部によると、すでに大阪で開業を希望する事業者に費用負担の説明を始めた。米国の大手 IR 事業者の MGM リゾーツ・インターナショナル日本法人のエド・パワーズ CEO は、朝日新聞の取材に約 200 億円の費用負担を伝えられていると明かし、事業者を選ばれば前向きに協力する考えを示した。

ただ、カジノ開業に必要な IR 実施法案は来年の通常国会に提出予定で、成立時期の見通しは立っていない。地下鉄延伸は、府と市が同じ夢洲に誘致をめざす 2025 年万博の構想にも含まれているが、「IR がなければ万博はできない」と府幹部は明かす。

さいごの「IR がなければ万博はできない」という言葉が心に残る。愛知万博は当初、海上の森での「新住宅市街地開発事業」とセットで構想された。愛知万博は「新住」と「心中」するのかと批判した。大阪「カジノ万博」はカジノと心中するのだろうか。



(2017年12月27日)